

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成30年12月27日(2018.12.27)

【公開番号】特開2017-131129(P2017-131129A)

【公開日】平成29年8月3日(2017.8.3)

【年通号数】公開・登録公報2017-029

【出願番号】特願2016-12478(P2016-12478)

【国際特許分類】

A 0 1 K 89/017 (2006.01)

【F I】

A 0 1 K 89/017

【手続補正書】

【提出日】平成30年11月12日(2018.11.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

上記構成によれば、リターンギアは、ハンドルの回転によっても回転するし、モータの回転によっても回転する。そして、このようなハンドル及びモータの回転によってリターンギアが回転し、リターン係合部はクラッチ切り換え機構をクラッチオン位置とする。このため、クラッチ機構がクラッチオフ状態のときにハンドル及びモータを回転させると、リターン係合部がクラッチ切り換え機構をクラッチオン位置として、クラッチ機構がクラッチオン状態となる。このように、本発明に係る電動リールは、ハンドル又はモータを回転させるだけで、クラッチオフ状態のクラッチ機構をクラッチオン状態にすることができる。このため、クラッチオフ状態のクラッチ機構を迅速にクラッチオン状態とすることができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

好ましくは、リターン係合部は、当接部を有する。当接部は、クラッチ切り換え機構がクラッチオフ位置にあるとき、リターンギアの各歯の間に配置される。当接部は、リターンギアが回転すると、リターンギアの歯によって各歯の間から押し出されてリターンギアとの係合が解除される。。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

第 1 遊星歯車機構 7 c の太陽ギアは、出力軸 6 1 と一体回転するように出力軸 6 1 に取り付けられている。第 2 遊星歯車機構 7 d の太陽ギアは、第 1 遊星歯車機構 7 c の遊星キ

キャリアと一体的に回転するように第 1 遊星歯車機構 7 c の遊星キャリアに取り付けられている。また、第 2 遊星歯車機構 7 d の太陽ギアは、出力軸 6 1 に対して相対回転可能である。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 6】

クラッチ操作部材 9 1 は、クラッチ機構 8 の状態を切り換えるための部材である。使用者がクラッチ操作部材 9 1 を操作することによって、クラッチ機構 8 の状態を、クラッチオン状態とクラッチオフ状態との間で切り換える。クラッチ操作部材 9 1 は、回転軸 O を中心に揺動可能である。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 4】

ハンドル 3 及びモータ 6 の回転に伴いリターンギア 1 0 1 が回転すると、リターン係合部 1 0 2 の爪部 1 0 2 b がリターンギア 1 0 1 の歯によって後方に押圧される。これによって、リターン係合部 1 0 2 が回転軸 O を中心に揺動して、クラッチ切り換え機構 9 がクラッチオフ位置からクラッチオン位置へと戻される。